

令和7年度 文京区立窪町小学校 授業改善推進プラン 第2学年

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策	成果と今後
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○叙述に沿って読み取ること。 ○出来事を書き綴ることはできるが、思ったこと、感じたことを書くために様々な表現方法ができないこと。 ○情景を意識した音読をすること。 ○既習の漢字の活用をすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本文の言葉に着目することを定着させる。 ○友達や作品のよい表現を称賛し、表現方法を豊かにさせる。 ○授業の中でよい読み方のポイントを押さえていく。 ○連絡帳や作文帳などに、普段から漢字を意識して使うように指導する。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本文の言葉に着目し、読み取っていくことができるようになった。 ○友達との交流によって、様々な表現の仕方を学ぶことができた。 ○叙述に沿って読み深めるとともに、読み方も表現豊かにできるようになっている。 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の定着や表記の正確さには個人差があるので、繰り返し学習し、表記のポイントを押さえていく必要がある。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能を定着させること。 ○数量や図形の領域では、具体的な量感や図をイメージする力を養うこと。 ○道具を正確に扱い、測定や作図を丁寧に行えるようにしていくこと。 ○児童の生活上の実態として、電子マネー等の普及で、現金を持って買い物に出かける機会も少ないことが事実として挙げられる。日常の中で物を数える等の経験を増やすこと。重さや量に意識が向くよう声をかけること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意見交流の時間を増やしたり学習課題の難易度を変えたりして、習熟度に合った授業内容を展開する。 ○自分なりの解決方法で追究できる課題の提示をする。 ○自ら予想し、その後実際に測定してみることで、数量へのイメージをもてるようにしていく。 ○道具の正確な使い方を指導し、反復練習させる。 ○数え棒やおはじきなどの具体物を10のまとまりを作って数えさせていく経験を授業の中でも継続的に取り入れていく。 ○児童の生活場面や具体物、半具体物を丁寧に扱いながら、立式や答えを求める過程を取り扱っていく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○習熟度に応じたクラスの展開や指導をすることによって、自信をもって発言したり意見交流をしたりできるようになった。また基礎基本の反復学習も実施し、知識・技能が定着した。 ○数量や図形の領域では、予想してから実際に測定することで、量感をイメージできるようになってきた。 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の生活場面や具体物、半具体物を丁寧に扱いながら立式や答えを求める力を高める時間を設ける。
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のめあてへの興味関心に個人差があること。 ○絵を描いたり、何かを作ったりするなど、活動には興味をもつが、自分の身近な生活のことへの気付きができていないこと。 ○様々な表現方法に取り組むこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○見通しのもてる授業計画を立て、いまやっていることが何なのかを分かるようにする。 ○意欲的な取り組みを称賛し、個々に働きかけていく。 ○何のための活動なのか、めあてをはっきりしながら自分の身近なことであることを意識させていく。 ○ICTをもっと活発に活用できるようにする。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとのめあてに沿って見通しをもたせることはできた。そうすることで、意欲的に次を目指して活動していくことができた。 ○国語や道徳と横断的なカリキュラムを組み学習を進めることで、様々な取り組みから学びを深めることができた。 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動の意味を考えることより、活動自体に興味をもつことができた。児童が振り返りをしっかりするためにも、教師側に評価の共通理解は学習前しておく必要がある。 ○この2年間の取り組みが低学年の学習として定着していくといい。

音楽科	<p>○曲に合った声の大きさや出し方、リズムの取り方をすること。</p> <p>○鍵盤ハーモニカの習熟に個人差があること。</p>	<p>○体を使った様々な表現方法や、曲想に合った表現をすることの心地よさや楽しさを味わわせる。</p> <p>○みんなで音を合わせる喜び、楽しさを知り、苦手意識が克服できるようにする。また、音楽会に向けてみんなで取り組めるよう指導していく。</p> <p>○児童同士での学び合いや、個別指導なども取り入れながら、個人差を少なくしていく。</p>	<p><成果></p> <p>○音楽会では、伴奏やまわりの声を聴きながら優しい声で歌うことができてきた。</p> <p><今後></p> <p>○中学年に向けて、音楽活動の喜びを味わいながら、姿勢や表情を意識して、よりきれいな響きの歌声を目指していく。</p>
図画工作科	<p>○絵の具の水の量の調節や隙間なく塗るなどの技能を定着させること。</p> <p>○立体・工作遊びにおいて見方考え方を広げること。</p>	<p>○造形遊びの中で様々な経験をさせ、よい技能を賞賛することを繰り返しながら、身に付けさせていく。</p> <p>○活動の狙いをしっかり伝え、自分のイメージを最初にもたせる時間を確保できるように授業を展開していく。</p>	<p><成果></p> <p>○様々な技能に触れたことで、自分なりに新たな発想を思い付く児童が増えた。また、楽しく作品をつくったり、鑑賞したりする姿が見られた。</p> <p><今後></p> <p>○全員がめあてを達成し、達成感を味わえるように、具体的な活動を想定して支援していくことが必要。</p>
体育科	<p>○「並ぶ・整列する」など集団行動を意識させる必要がある。</p> <p>○勝敗を受け入れることができるようにすること。</p> <p>○体の使い方や動かし方が分かっていない児童が多数いるため、いろいろな運動や動きを経験させる必要がある。</p>	<p>○体育の時だけでなく、日常の中に、素早く並ぶなどの動きを積極的に取り入れて指導する。</p> <p>○相手を尊重することの大切さを繰り返し伝えていく。</p> <p>○体育の時間や休み時間に、様々な固定器具や道具に触れたり、自分の体を使った運動遊びをたくさん経験させたりしていく。</p>	<p><成果></p> <p>○教室移動の際にも、並び方の指導を行って行くことで、集団を意識して行動できるようになった。</p> <p>○負けた時も結果を受け入れ次にどうすればいいか考えるようになった。</p> <p><今後></p> <p>○道具を使った運動の時間が少なくなったため、時間を確保して行う。</p>
外国語活動	<p>○ALT の英語の発音を聞き取り、繰り返すことを恥ずかしいと思う児童がいること。</p> <p>○写真や絵、ALT のジェスチャーから言葉の説明、意味を想像することができない児童がいること。</p>	<p>○ALTと学習する中で歌やチャンツで楽しく、繰り返し英語を口にし、英語に慣れ親しむよう声かけしたり、称賛したりしていく。</p> <p>○写真や絵を見て、児童には英語の言葉のおおよその意味を想像させたり、個別に指導したりするなどを、繰り返しながら言葉を覚えていく。</p>	<p><成果></p> <p>○活動の流れがつかみやすく、楽しく活動できた。デモンストレーションを前でもやりたいという意欲もあり、取り組みも積極的だった。</p> <p><今後></p> <p>○3年生からは週一になることより、コミュニケーション力、語彙力も増えていくよう取り組む。</p>
道徳	<p>○教師と児童の一对一のやり取りになってしまいがちである。意見をクラス全体に広め、共有していくこと。</p> <p>○価値を一般化して日常生活にしっかり生かせるようにしていくこと。</p>	<p>○様々な意見を出し合えるように発問を吟味すると同時に、その発問を通して、対話できる時間を設ける。</p> <p>○児童が自分の考えをもち、意欲的に自信をもって伝えていくことができるように、書く活動を積極的に取り入れていく。</p> <p>○自分自身の生活を振り返り、よりよい自分の姿を考えさせるためにも、教師側が日常生活の中で意識して声掛けや掲示などを行い、道徳的心情を継続的に育成していく。</p>	<p><成果></p> <p>○実態に即した発問を検討し、授業計画を立てることで児童の考えや思いを引き出すことができた。</p> <p>○意見交流の時間をもつことで、多様な考えに触れたり、自信をもって自分の意見を伝えたりすることができた。</p> <p><今後></p> <p>○終末の発問で自分自身の生活を振り返る時間を確保し、日常生活の中に学びを生かせるように、道徳的心情の育成を継続していく。</p>